

令和5年第3回定例会一般質問通告事項

6 月 23 日	魚 谷 悟 議 員 (日 本 共 産 党)	質問方式：一問一答方式
	<p>1 市民の暮らし・営業の認識について</p> <p>(1) コロナ給付金が10万円支給された当時と比べて、現在の市民の暮らしや営業は厳しくなっているとの認識はあるか</p> <p>(2) 今はいわば非常時といえる。今後も国の交付金などに上乗せして、市の貯金である財政調整基金などを活用して、暮らしや営業の支援をすべきであると思うがどうか また、これまでそうした給付の際、上乗せして支給したことがあったのか</p> <p>2 国民健康保険制度について</p> <p>(1) 国民健康保険料の「県単位化」について</p> <p>ア 「県単位化」で保険料は統一されるが、医療を受ける機会の違いがあることについて、どのように考えているか</p> <p>イ 来年度から本格的な保険料の「県単位化」が始まるが、これまでの準備期間とくらべて、どこがどのように変わってくるのか</p> <p>ウ 市が持っている国民健康保険事業特別会計にある基金について、県はどのような方針を持っていると承知しているか</p> <p>(2) 保険料の引き下げについて</p> <p>ア 国民健康保険事業特別会計にある「財政調整基金」約5億8,000万円や一般会計にある「地域福祉基金」約17.6億円を活用して、市民の暮らしを応援するために保険料を引き下げてはいかがか</p> <p>3 介護保険制度について</p> <p>(1) 第9期計画について</p> <p>ア 現在市が知り得ている介護保険制度の改正点についてどのように把握しているか。第9期計画策定に向けて、どのようなスケジュールで進めていく予定なのか</p> <p>イ 第8期計画が折り返し点を通り3年目になるが、第9期計画に向けて何が課題だと認識しているか</p> <p>(2) 特別養護老人ホームの増床について</p> <p>ア 特別養護老人ホームの待機者は、各自治体から県に報告し、県が1年に一度集計していると思うが、直近の集約では何人いるか</p> <p>イ 第9期計画では、待機者の多い特別養護老人ホームを増床すべきではないかと思うがどうか</p>	

<p>6 月 23 日</p>	<p>(3) 介護保険料の引き下げについて ア 第9期の3年目の今年、ゼロであってもいい基金が約16億円もあることについて説明を求める イ 来年度の第9期計画の保険料を決めるに当たっては、この基金を活用して低く抑えるべきだと思うがどうか</p> <p>4 小・中学校給食について (1) 小・中学校給食の無料化又は補助制度について ア 尾道市でも小学校給食費の無料化又は補助制度を作ってはどうか。その際、無料化のために要する費用はいくらになるか (2) 中学校給食について ア 市民の代表である議会が採択した、中学校給食を小学校のような給食を早期に、という趣旨の請願をまともに実行してこなかったとの反省はあるか</p> <p>5 御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について (1) 御調地域の「乗り合いタクシー」制度などのデマンド交通について ア 今後御調町で実施されている「乗り合いタクシー」制度をどのように改善・充実されるかの概略を示してほしい イ 尾道は2市3町で、向島、因島、生口島と広い市域になった。この地域での車を持っていない高齢者などの移動は、御調町と同様な問題があり、バスの便数などどのようになっているのかを検討されたことは有るか。そして、必要なら何らかの施策の展開があるのではないか</p> <p>6 土堂小など3校の統合問題について (1) 土堂小など3校の統合問題について ア 関係者がどんなに現地存続を望んでいても「いつか決断しなければならない」と、スケジュール通り9月議会に設計費の補正予算を提出するつもりなのか、明確に答えて下さい イ 現在児童数が88名の向島町の三幸小学校は、過去に統合の計画が立てられたが、未だに統合されていない。それは関係者が統合を望んでなく、それを教育委員会が認めたからで、それがどうして土堂小学校で認められないのか</p>
-----------------------------	---

<p>6 月 23 日</p>	<p>(2) 「検討にあたっての考え方の3つの点」その①「安全性の確保」について</p> <p>ア 現在ある小学校 24校の内、警戒区域にある学校が 67%、特別警戒区域にある学校が 10校 42%もある。同様に中学校 16校の内、警戒区域にある学校 11校、69%、特別警戒区域にある学校が 10校、実に 63%もある。安全性の確保を言うなら、この状況は大問題ではないか。教育委員会の見解を伺う</p> <p>(3) 「検討にあたっての考え方の3つの点」その②「校舎の耐久性(築年数に伴う影響)」について</p> <p>ア 耐震化前の吉和小学校の校舎は S 46年建築で地震に対する強さを示す IS 値は 0.29、同じく栗原小学校の校舎、S 44年建築の IS 値は 0.24 に対し、土堂小学校の S 12年建築の校舎の IS 値は 0.29、同じく久保小学校の S 8年建築の校舎の IS 値は 0.39 と耐震性能は 80年以上経った土堂小や久保小の方がいいという結果が出ているが、教育委員会としてこれをどう説明されるのか</p> <p>(4) 「検討にあたっての考え方の3つの点」その③「適正な学校規模の確保」について</p> <p>ア 小学校で全学年複数学級があるのは小学校で 23校中 6校で、26%と 4分の1、中学校は 16校中 11校で、69%です。それを 3小学校、いわんや中学校まで統合しようというのは道理がないということではないか</p> <p>イ 土堂小学校の児童数については、隣接している日比崎小学校との学区の見直しをすれば、一定数の人数を確保できるが、日比崎小学校との学区の見直しをすることについて、教育委員会の見解を伺う</p> <p>ウ 日比崎小学校では平原の開発や新浜、天満町、栗原西 1丁目のマンション建設で児童が増え、運動場に仮設校舎を建てたまま運動会すら自校でできず、日比崎中学校で行っている状況があり、これこそよりよい教育環境とは言えないのではないか</p>
-----------------------------	---